

8) グローバリゼーション部門

森 悠一郎（准教授・法哲学）

2022 年度の研究活動およびそのアウトプットについて。

2022 年度には前年度に引き続き、法哲学の正義論の領域において、「なぜ差別を『法によって』禁止すべきか？」にかかわる、あるべき差別禁止法についての研究に取り組んだ（前々年度に採択された科学研究費助成事業・若手研究「個人としての尊重を基底にしたあるべき差別禁止法理論の法哲学的検討」による研究の一環である）。とりわけ具体的な問題として、2022 年 2 月 24 日のロシアによるウクライナ侵攻に際し、徴兵および予備役としての動員のために 18 歳から 60 歳の男性市民の出国を禁止したウクライナ政府の措置（「ウクライナ出国禁止令」）につき、個人としての尊重に重きを置いた差別の規範理論や、差別を法（憲法や国際人権法を含む）で禁止することに伴う固有の論点に照らして、いかなる規範的な含意をもたらすのかについて考察した。

これらの研究活動の成果としては、後述の論文・学会発表があるほか、とりわけウクライナ出国禁止令をめぐる検討結果については、電子マガジン『 α シノドス』（「個人の不自由・男性差別・圧政の放縦化——正義論から見たウクライナ出国禁止令の問題（前半/後半）」 Vol. 301 (<https://synodos.jp/a-synodos/28303/>)、Vol. 302 (<https://synodos.jp/a-synodos/28334/>)）に寄稿して発信するとともに、英語論文の形で海外の法哲学系学術雑誌に投稿した（現在査読待ちである）。

その他（教育活動ほか）

通常の教育活動としては、学部向け「法哲学」講義、「演習 II」、「外国語応用演習（英語）」、研究大学院・法科大学院向け「現代法哲学」を担当したほか、センター科目としてオムニバスの総合講義「価値対立時代の対話学」に 2 コマ出講した。

また 2021 年度に引き続き、本学法学研究科内の研究会である法理論研究会の世話人を務めた。2022 年度には 8 回の例会、4 回の特別会を開催し、いずれも本センターと共催した。

加えて、第 64 回北大文系祭 1 テーマ講義において、「共存とリベラリズム——自分にとって『キモい』人をなぜ排除してはいけないのか?」という題目で、講師として登壇した。

論文

論文標題	誌名	発行年	頁
Relational Equality	Encyclopedia of the Philosophy of Law and Social Philosophy	2023	1-7
ポリティカル・コレクトネスの意義と限界——差別との闘いが孕む差別	法学セミナー	2023	36-41

学会発表

発表課題	学会等名	年月日	発表場所
The Diversity of Objections to Racial Discrimination in Immigration	30th World Congress of the International Association of Law and Social Philosophy	2022/7/5	Dimitrie Cantemir Christian University (Romania)
Making Sense of Race-based Affirmative Action in Allocating Scarce Medical Resources	30th World Congress of the International Association of Law and Social Philosophy	2022/7/7	Dimitrie Cantemir Christian University (Romania)

図書

書名	出版社	発行年	単／共
相談支援の法的構造——「地域共生社会」構想の理論分析	信山社	2022	共著